

教師用 指導案

1. テーマ・授業名

テーマ2 パラリンピックスポーツ

授業3 「ゴールボールをやってみよう！」

2. 授業の目標

- ・ゴールボールを体験することで、パラスポーツを身近に感じ、興味を持つ。
- ・ゴールボールの魅力を知り、応援したい気持ちになり、人に説明できるようになる。
- ・視覚に障害がある人たちも楽しめるように工夫された競技を体験し、目が見えない状態の中で、様々な工夫によりできることが増える感覚を知り、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さについて考える機会となる。

3. 本時の位置づけ

- ・道徳の「友情、信頼」「相互理解、寛容」などの視点における事例学習として活用。
- ・総合的な学習の「福祉」の授業での活用。

※その他、体育、学級活動、学年集会などの時間を活用してもよい。

4. 指導の留意点、工夫点

- ・本時の前に、[2-1 パラリンピックスポーツについて学ぼう！] を実施し、時間内に、ゴールボールの試合やルールの映像を見せておくといよい。[2-1] を実施していない場合は、給食などの時間を使って、本時が始まる前に映像を見せておくといよい。
- ・プレーヤーとして障害の疑似体験をするだけでなく、パラスポーツを見たりサポートしたりする側の経験もさせ、障害理解を深める活動につなげられるようにする。
- ・ゴールボールは比較的シンプルなルールなので、練習に時間を割かず、ゲーム体験ができる。ただし、見えない状態には慣れていない児童たちが、不安や恐怖心を抱かないよう、十分な配慮や怪我の予防が必要である。
- ・見えなくても、集中して音を聞けばボールの速度や方向がわかったり、ラインテープを触ることで位置が確認できたりする体験を通して、工夫してスポーツを楽しむ良さを体感できるようにする。
- ・プレー中は声を出して応援してはいけないなどのゴールボールのルールを理解し、ゴールボールというスポーツの魅力や、ユニークな面を知る。
- ・時間があれば、「ボールの方向に気づくには、試合中はどういう状態だといいか」「ぶつからないためにはどうしたらよいか」など、環境を整えるための工夫ができていたら、積極的に認めていく。
- ・さらに授業数が取れる場合は、チームごとに得点を取るための攻めや守りの工夫を考えさせ、何度かゲームをさせるとよい。
- ・また、静かにできない時などのペナルティを厳しく行うなど、難度を上げていってもよい。
 ※ゴールボールは本来ならボールのバウンドなども認められているが、今回は安全性を考え転がす。
 ※本指導案の設定は、コートは1面で実施。
 ※人数の多いクラスの場合、プレーしない児童が待っている時間が長くなりすぎるので、2面で実施してもよい。その場合の工夫点は、後述。
 ※詳細は「かんたん！ゴールボールガイド」（公財）日本パラスポーツ協会発行

http://www.parasports.or.jp/about/referenceroom_data/competition-guide_03.pdf

5. 準備物

- ・授業用シート（2-3） ・児童用ワークシート（2-3）
- ・映像資料：ゴールボール
- ・ボール：音が鳴るボール1個（コート2面の場合は2個）

※ゴールボールの公式球の用意が難しい場合は、バスケットボールやドッジボールにスーパーなどのレジ袋をかけて、音が出やすいようにするとよい。

- ・アイマスク：手ぬぐいなど、目がかくせるものならどのようなものでもよい
- ・コーン（4本）：ゴールを示す ・得点板 ・笛 ・ビニールテープ、布ガムテープなど

【競技説明】



【教師用映像】



動画でコートの準備の仕方や、指導上の留意点を説明しています。

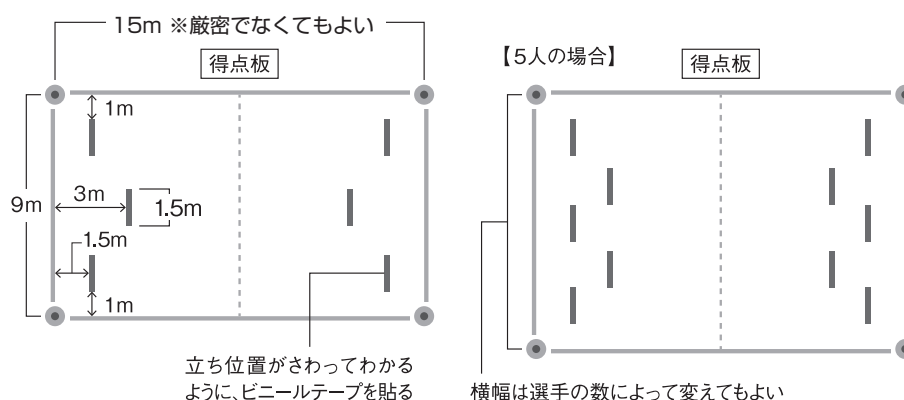
【教師用映像】ゴールボールをやってみよう！（6'55"）をご覧ください。

〈展開案〉※【 】内は経過時間

時 間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
振り返り (5分) 【5分】	ゴールボールに合った準備体操を行う。	・肩や首、指を念入りにストレッチしておく。 ・準備体操は、導入①の後でもよい。	
振り返り (5分) 【10分】 目安 めあて：2分 ルール：3分	(1) 本日のめあてと、授業の内容を説明する。 ・めあて ①ゴールボールについて知る ②人に説明できるようになる ・本日の授業 ゴールボールについて知る →試合→振り返り (2) ゴールボールの基本的なルールを説明する	(1) ・目が見えない状態でのまわりとのコミュニケーションについては、授業用シートにはめあてとして記していないが、様々な説明の中で、感じさせるようにする。 (2) ・パラリンピックで実施する際の規則とは異なり、授業では小さいコートで、時間も短くして行うことを伝える。	・授業用シート（2-3） 【教師参照】 ・教師用ハンドブック「パラリンピックスポーツとは」 ・映像資料：ゴールボール
まとめ (7分) 【17分】 目安 ボールの投げ方 取り方など：2分 試合の方法の説明：5分	(1) 危険なくプレーできるように、ボールの扱い方を伝える。 ・投げ方、取り方 ・渡し方	(1) ・攻撃の際は、投げるのではなく転がすよう伝える。 ・止める時は、突き指をしないようにすることを注意する。どこで止めても構わないが、中腰などボールが止めやすい姿勢で待たせる。 ・相手が見えていないことを忘れがちになるので、ボールを渡す時など、十分に注意するよう促す。	授業用シート（2-3） 【教師参照】 ・教師用ハンドブック「パラリンピックスポーツとは」 ・映像資料：ゴールボール

時間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
	(2) ゴールボールのルールと、試合の方法を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・その他、見えないために、いつもより注意深くすること、言葉でよくコミュニケーションを取ることを伝えたいので、なぜそうするかなどの問いかけを行いながら進めるのもよい。 ・可能であれば、映像を見せてもよい。 (2) ※試合の説明については、次の展開の欄参照。 ・可能であれば、映像を見せてもよい。	
展開 (15分) 【32分】	試合時間4分、交代時間1分で、試合を行う。 ・教師は審判 ・クラスを2チームに分け、チーム内をグループ（1グループ3～5人）に分けて役割を持たせる。 選手： 試合をする ボール係： ボールを拾ったり、選手に渡したりする 得点係： 点数を確認する、「お静かに！」を出す 実況係： プレーが止まったときに状況の説明をする <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【実況の例】 「AくんのボールがBさんの横を通り抜けてゴールしました」 「Cさんのさわったボールがサイドラインを割りました」 「赤チームに点が入り、3対1で赤が勝っています」 など </div>	【係の作り方】 ・コートが1面だけなので、選手以外にも係を作り、常に全員試合に参加している状態を作りたい。 ・試合する選手の人数は、クラスの数によって調整してよいが、奇数の方がやりやすい。（選手が前後に重なりにくい）サイドラインを超えたときは笛を1回吹いて知らせる。 ・チーム①は選手、ボール係、得点係を交代で、チーム②は選手、ボール係、実況係を交代で行うとうまく回るが、クラスや1グループの人数に合わせて、係の作り方を工夫するとよい。 ・ボールを正しい方向に投げるのが難しいので、「ボール係は選手を立ち位置まで連れて行ってよい」「ボール係が一度だけヒントを伝えてよい」などの独自ルール作るとよい。 【試合のルール】 ・審判は、笛を短く3回吹いて「プレー」と言って始める。得点係は「お静かに！」を出して、大きな声でお静かにと伝える。先攻後攻は適宜決めてよい。 ・ボールを投げて、相手チームが止めて取った場合は、プレーを止めにそのまま取った人が投げてよい。（本当の試合のルールは、10秒以内にコートのセンターラインまたはサイドラインを超えるように投げる）サイドラインを超えたときは笛を1回吹いて知らせる。 ・ゴールしたら「ピッ、ピッ」と笛を短く2回吹き、審判が「ゴール」と言う。 ・ゴールに入った、サイドアウトしたなど、プレーが切れた時は、全員に投げる機会があるように、チーム内で次にボールを投げる人を交代する。 ・勝敗は、1セットごとか3セットの合計得点にするかははっきりさせておき、試合感を高めるとよい。3セット合計にしてチーム対抗意識を持たせた方が、協力しあってできる。 ・1グループの人数が多い場合は、投げたボールが前に立つ味方に当たることがあるので、立ち位置を考慮したり、ルールなどの工夫をしてよい。	・授業用シート（23） 【教師参照】 ・教師用ハンドブック「パラリンピックスポーツとは」 ・映像資料：ゴールボール

時 間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 試合時間の設定もクラスの状況に合わせてよい。全員がボールを投げたら交代などとすることもできる。 ・ 試合が始まったら静かにするように注意する。声を出したり、音を出したりしての応援はできないなどのルールは、ここでも確認しておく。 【指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・ よくできたことを積極的にほめる ⇒ 静かに観戦できたね。 ⇒ 集中してボールの音を聞いてキャッチできたね。 ・ 体験を通した気づきについて問いかける ⇒ 目が見えない状態で、感じたことは？ ⇒ 目が見えなくても、スポーツを楽しめるようにどんな工夫があった？ ⇒ 実況係のコメントはどうだった？ 	
振り返り (8分) 【40分】	体験して思ったことを児童用ワークシートに書かせ、振り返らせる。 ・ ワークシートへの記入	<ul style="list-style-type: none"> ・ うまく書けていない児童は、今日驚いたこと、知らなかったことなどを聞き出して、書けるようにフォローする。 ・ 時間がない場合はゴールボールを体験して気づいたことを、口頭のみで振り返る。ワークシートは宿題にしてもよい。 	児童用ワークシート (2-3)
まとめ・片づけ (5分) 【45分】	数人に振り返りを発表させた後まとめる。 ・ 発表させる ・ まとめる ・ 協力して片づけをさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の驚きや気づきを発表させ、よい発言があったらほめる。また、「テープを触ると自分の位置が確認できて安心した」「説明がわかりやすかった」など、工夫によって目が見えない状態でも楽しめたことについても確認するとよい。 ・ 発見したコツを披露させてもよい。 ・ まとめとして、友達への配慮や、係としての確に動けたことなど、よい態度があったらほめる。 ・ 用具の片づけも協力してできるようにする。 ・ 宿題：ゴールボールの説明 	児童用ワークシート (2-3)



■コートの方、立ち位置

※コーン（●）はゴールを示すところだけに立てる。コーンとコーンの間を通ったら得点。コートの広さ、立ち位置（Ⅱ）などは厳密にしないでよいが、位置がわかるようにしたい。児童同士がぶつからない位置、またボールを転がした時に、前の選手に当たらない位置を意識する。

※実際の試合では、テープの下にタコ糸を入れているが、タコ糸を入れずに、テープの一部分を盛り上げ、しわを作るように貼るだけでも十分わかる。

※コーンを置くだけでもゴールやコートの大きさは示せるが、立ち位置は必ずこの方法で示したい。

■コートを2面で実施する場合

※人数が多い時は、クラスを4チームに分け、2面のコートで実施する。

※教師が1人だと、ゲームのコントロールが難しくなる。ボールを取った場合連続して投げさせずに、1回1回ゲームを止めるとよい。笛を吹いて「プレー」と言って再開という形にする。